



発行
KOA 森林塾
(事務局)
0265-70-7065
編集 坂野慎治
題字 島崎洋路

通年コース第三・四回開催報告

「測量、歩道開設・下草刈り」

『広さを測ってみませんか』

東シナ海からやってきた雨雲が未明まで伊那谷に雨をもたらしたものの、朝には、すでに夏のような太陽の陽射し。

ライラも上昇しそうな初日の測量。谷側に二本・山側に一本の脚を出しても、揺らぐ三脚。携帯電話や鉦といった局所引力にふらつく磁針。水準器の気泡やいる

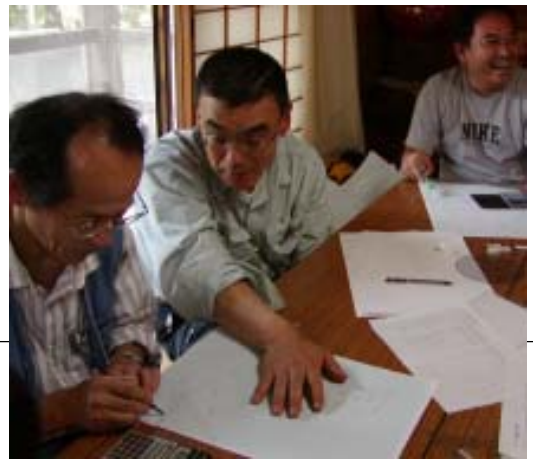
いろいろな固定ネジに翻弄され、測量手順に疑心暗鬼。視準の十字線や盤面の方位線が視界のなかでにじみ、一点の測量に四苦八苦しながらも、各班十二点を測量。さらに、製図では、水平距離の換算に電卓と闘い、使い慣れない全円の分度器に戸惑う。精度に意気消沈し、誤差の修正に辟易しても、それでも、出来上がった



ポールを探して



まずは、水平を！



三角形を作って、面積の計算

た図面をみれば：：我ながら良く出来たと思う。そうして翌日の歩道測量

では、手順は若干違えども、あつかう機械は同じくコンパスということ、昨日の苦労が実を結び、順調に作業が進む。経路の製図が終了したら、今までの鬱憤をトンガに込めて、地山を掘削。腐植を取り除き、時には木の根を切断しながら、山側に少し低くなるよう傾斜を付けた歩道が見えるうちに出来上がりました。

そして、二日目の午後は、分乗して先月植林をした西春近の現場へ。昨年までの植栽地は、草本や灌木に覆われてヒノキの苗が見えないところも。風通しを良くし、葉に陽光が当たるように下草刈りです。手鎌や造林鎌を手に林地に散開。インストラクターの皆さんは各自が刈払機で実演。希望者の方々がマンツーマンで指導を受けました。直射日光を遮るもののない植栽地での作業は、重労働ながらも、綺麗に刈り払われたあとを眺めると、充実感が顔がほころぶ。

広さは、林地を知る上での基本的な情報の一つです。近年の民有林では、境界も不明確な林地が多くなっています。皆さんの所有する山林や身近な森林で、所在位置がわかっているところは、境界を確定させて測量をしてみたい。製図をしては如何でしょうか。製図をして面積を計算してみたら、公図よりずっと広いということも…。そして、図面上で歩道設計し、実際の林分の下草を刈って測点を設置してみませんか。多少の荷物を背負って歩いても苦にならず、足をそんなに気にせず歩ける幅の歩道が林内をくまなく巡っている様子を想像しながら。



横断の測量、山側

通年コース
第三・四回

6月16日(金)
測量

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。早川講師の挨拶。測量方法や林道についての講義。

9時15分

班分け・休憩の後、各班毎に測量開始。小屋横の伊那市有のアカマツ林に設置された合計十二点の周囲測量を行う。方位角度と傾斜角度と斜距離と。

11時25分

実測を終えた班は適宜小屋へ戻り、データ整理。

12時15分

最後の班も実測を終了し、昼食。天気がいいので、鳩吹公園で昼食をとる方も。

13時

製図開始。三角関数で斜距離から水平距離を割り出し、縮尺分の図上距離を決める。見慣れない全円の分度器で方位を取り、測点を記入していく。三角関数を使うとは思わなかった。分度器の数字が...など、苦勞しながらも手書きの図面が出来上がっていく。測りなおす班もあったが、誤差の修正を施し、面積計算まで行う。

15時45分

早川講師から講評と歩道開設についての講義を受ける。

16時

終了、解散。お疲れ様でした。

6月17日(土)
歩道開設・下草刈り

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明など。

8時40分

機材を準備して各班毎に測量開始。やはりコンパス測器で歩道経路の測量。勾配すなわち傾斜角度は五度または八度の固定。測器高さのポール位置を

9時40分

探して、ポールマンへ移動を合図。測点毎の横断測量もやってみます。

9時40分

歩道経路の測量が終わった班から小屋へ戻り製図。縦断の平面図、各点の横断図、計画路盤工...

10時35分

製図の終わった班から、トンガを持って、歩道の開設へ。腐植を除き、山側が少し低くなるように地山を掘削。一番奥の小泉班、階段を設置。全長四十五mの歩道を完成させ、

11時40分

小屋へ戻り、昼食。

12時45分

分乗して、先月植林した西春近の現場へ。

13時5分

林道入り口着。地元の素材生産業者の方が、ロギングトラクタで材を搬出している脇を徒歩で現場へ向かう。

13時25分

手鎌および造林鎌の使い方。早川講師から説明して頂き、

15時35分

下草刈り開始。先月植林したところは、まだ草本や灌木が伸びていないので、昨年・一昨年に植林したところの草を刈る。希望者は、刈払機を使ってみました。みるみる綺麗になり、ヒノキが顔を出してきた。

15時40分

現場作業を終了。植栽した苗の様子を観察した後、小屋へ戻る。

16時25分

質疑応答、講師講評。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/石垣さん、石田さん、石原さん、井上さん、榎さん、大村さん、川越さん、小池さん、坂上さん、高野さん、高橋さん、長田さん、山本さん、吉永さん、松岡さん、斉藤さん、園田さん、長坂さん

講師/早川講師
スタッフ/川島、小泉、後藤、坂野



並んで、歩道の開設



刈払機を使ってみました

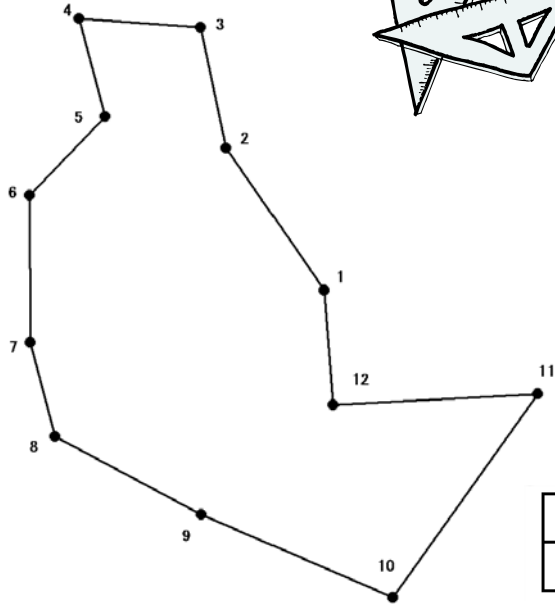
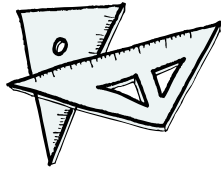


一心不乱に、草と格闘

測量の結果

さて、今回の測量実践は如何だったでしょうか。三角関数や分度器を使うのは数年ぶりという方もいたのではないのでしょうか。班毎に測量誤差は共有でも、製図は各自なので、同じデータを使っただ同じ班の図面でも出来上がりは十人十色。そして、誤差は出るのが当たり前。許容範囲内の誤差は認めてもらったうえで、の誤差修正を施し図面の完成となりました。

左図は、小泉班のデータをパソコンにいられて図化して見たものです。パソコンなどで製図誤差はありませんので0.73%は測量誤差とな



誤差	0.73%
面積(m ²)	1371

ります。面積は、一千三百七十m前後の様様です。任意に三角形を作って計算したものと比べてみて下さい。

このエクセルで作った製図・面積計算ソフトの必要な方は問い合わせ下さい。メールでの送信はもちろんFDでの配布が可能です。また、今回の講座を機会に、ご自分の山の測量

を試してみようかとお考えの方や復習のためもう一度測量をやってみたいとお考えの方は、機材をお貸ししますので遠慮なくお申し出願います。

次回以降の予定

専門コース 第二回

7月6〜8日(木〜土)

基本の反復と前回に比べよりステップアップした方法での伐倒に挑戦してみましよう。また、傾斜地での安全確実な造材や枝払いの習熟も平行して。ご希望があれば牽引伐倒やひっぱりだこ集材も可能です。現場は前回と同じ小屋近くの林分を予定しています。三日間ともに、8時30分、島崎先生の山小屋集合です。

第五・六回

7月14・15日(金・土)

測樹・施業診断、伐木造材

一日目は、どんな木がどれくらいあるか。まずみが丘平地林の一角で、太さ・高さを実際に測ってみます。そして、そのデータをもとに、現在の健康状態や今後の施業の計画を立案してみます。二日目は、いよいよチェーンソーを使った実践。始動方法や丸太の輪切り練習、玉切り。立っている木の伐倒してみます。また、簡単なチェーンソーメンテナンスも行う

予定です。

8時30分、島崎先生の山小屋に集合。雨具、筆記用具と電卓も忘れずに。それとあればヘルメットやナタ・鋸を。なお、前回都合で来られなかった林業道具店のミズホ鋼機さんに14日夕方に来て頂く予定です。

集中コース夏の部

8月3日(木) 8月5日(土)

KOA森林塾のエキスを集めた三日間です。樹を測る測樹やチェーンソーを使った伐木造材、そして簡単な集

やま・もり 豆知識 単位の話

測量をする上で必要な単位の話、まずはm(メートル)。地球一周の長さはおよそ4万kmですが、それはなぜかという話?

北極から赤道までの長さの1000万の1を1mと決めたからです。フランス革命直後の混乱の時代、ナポレオンが台頭する少し前、二人の男がパリを通り、同じ子午線上にあるダンケルクからバルセロナまでの距離を測りました。1075km、この二つの緯度差は9.673度で、これを基準

に1m(メートル)という単位が出来たそうです。なぜ1000万分の1にしたのかというと、当時、人間の肘から中指の先というのが長さの単位として使われていたそうですが、単位としてはこの約二倍くらいが適当ではないか、というものらしい。きっちりしているのかアバウトなのかよくわかりませんが、それにしても昔からフランス人は手が長かったんだ。

さて日本の尺も、肘から手首までの骨の長さ(尺骨)を基準にしているようです。明治時代に統一された長さでは30.3cmです。六尺で一



でしたね。広さの単位、一町は一町歩とも言います。この十分の一が一反歩(たんぶ)、さらにその十分の一が一畝(せ)。家庭菜園でしたら一畝もあれば十分です。



材まで一通りの事をやってみます。あれやこれや盛りだくさんですが、何かひとつでもお持ち帰りいただければ幸いです。募集締切は7月10日(月)です。なお、5日(土)は伊那まつり。踊りはもちろん、花火やフリーマーケットなどなど。御用とお急ぎでない方は見ていってください。

リレー通信



「山仕事に
出会うまで」
榎 吾朗

はじめに

仙台から参加しました榎吾朗です。年齢は三十三歳、現在は運送会社でパートタイムとして働いています。私が山仕事を知ったのは、今から十年程前のことです。私は学校卒業後、コンクリート製品メーカーの営業として名古屋で働いていました。担当していた地域は、愛知県南部と三重県北部及び中部でした。特に三重県に行くときは、朝早く車を飛ばして営業に出たものでした。この時

楽しみにしていたのは、車窓から見える山の景色でした。春になると、山が薄い緑色に覆われ、更に暑くなってくる。濃い緑色に覆われていきます。それを見ると、何故かホッと、嬉しくなりまして。また、途中の峠道で休憩した時の空気のおいしさも格別なものでした。

仕事自体は楽しかったのですが、「このままでいいのだらうか」と思う日が続いたころ、転職雑誌で山で働く職業があることを知り、資料等も取り寄せましたが、体力的にもつかどうかかわからず、その時はあきらめませんでした。

森林塾との出会い

その後、知人のついでで仙台市の職場に転職し、七年ほど働いておりました。仕事は主に事務が中心でした。そこでは敷地内に山があり、身近に山の自然に触れる機会が多

手伝いがてら遊びに行っていました。そこでは、敷地内の山に山野草公園を作ること、山林の開発をしていました。手伝いといつても、木を手ノコで薪大に伐ることくらいでしたが……。そして、だんだんと漠然とですが、チェーンソー等の山道具を扱えるようになりたいと思うようになりました。

そんな時、平凡社刊行の「別冊太陽 古民家生活術」の中の記事を思い出しました。その中には、鳥崎先生と塾生の皆さんの講習風景の写真が何枚か掲載されており、また文中には、「山仕事は危険を伴う。だから基礎はしっかりと教わらなくてはいけない。だが、訓練次第で誰でもできる……」の一文がありました。問い合わせをしたところ、秋の集中コースがあるとのことだったので参加しました。平成十七年のことです。

最後に
今私は、時間を作っては山に入り、草刈や伐木の真似事をしていきます。しかし、ヒヤリハットの連続です。保育社の検索入門シリーズもやっとな手しましたので、これからは樹木の名前を覚えることも始めます。

用して作った広い舞台が設置されており、約百名の招待者と二百名程の関係者が見守る中、神事は厳かに進みます。神官の読む祝詞の声は全く聞こえず、聞こえてくるのは近くを流れる小川のせせらぎと、時折聞こえる鳥の鳴き声のみ。こんなに静かな儀式は初めてで何か感動的でした。

コラム

伊勢神宮では、二十年ごとに社殿を建替える式年遷宮という行事があります。そして、この遷宮に至るまでには多くの儀式があり、その一つに「仮御桶代木(かりみひしろぎ)伐採式」というものがあります。これは、古い本殿から新しい本殿へご神体を移す際に使う「仮御桶代」の用材を伐採する儀式です。去る五月十七日、木曾の上松町にて行われたこの儀式に参加してきました。

「イントラ 川島」
やがて六人のそま夫による伐採が始まり、ヨキで伐ること約一時間。無事伐採が完了。山の中とても静かな状態で、心が洗われる感じがしました。

おわりに

今の時季は梅雨のはず、…なのに、伊那谷では雨が少なく、盛夏のような気温の高い晴天の日が続いています。皆様の地元では如何でしょうか。くれぐれも体調を崩されませんよう、「ご自愛願います」。



かなりまし
た。が、二年前にそこも退職し、将来どうするかを日々考えておりました。考えに行き詰まると、前の職場で親しくしていた人のところへ

初日に、生まれて初めてチェーンソーにさわり、おっかなびっくり玉切りをし、次の日には伐木を行ったのですが、何が何やらわかりませんでした。すごく汗を流したことがだけ覚えています。しかしながら、山林の見方が今までとはガラリと変わりました。以前はもやし状に伸びた杉林を見て何とも思わな

森林塾は、講義は素人の私にとっても大変わかりやすく、作業も楽しく学べるところが大変素晴らしいと思います。また、塾生の方々も各地から集まっていますので、それぞれの森林に対する思いを聞くことも大変勉強になります。年齢層も厚く、人生の先輩にあたる方々の話が聞けることも魅力的です。

場所は国有林の奥、伐採木は胸高直径1m、樹高約30mの天然木曽ヒノキで、これを「三つ紐伐り」という手法で、ヨキを使って倒します。現地の急斜面に、立ち木を利

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp